

平成22年9月21日

1. 出席議員

|     |     |     |      |     |     |
|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 1 番 | 松 田 | 義 太 | 9 番  | 水 頭 | 喜 弘 |
| 2 番 | 松 尾 | 勝 利 | 10 番 | 橋 川 | 宏 彰 |
| 3 番 | 松 本 | 末 治 | 11 番 | 中 西 | 裕 司 |
| 4 番 | 光 武 | 学   | 12 番 | 谷 口 | 良 隆 |
| 5 番 | 馬 場 | 勉   | 13 番 | 小 池 | 幸 照 |
| 6 番 | 森 田 | 和 章 | 14 番 | 松 尾 | 征 子 |
| 7 番 | 徳 村 | 博 紀 | 15 番 | 中 村 | 雄一郎 |
| 8 番 | 福 井 | 正   | 16 番 | 橋 爪 | 敏   |

2. 欠席議員

な し

3. 本会議に出席した事務局職員

|         |     |     |
|---------|-----|-----|
| 事 務 局 長 | 澤 野 | 政 信 |
| 局 長 補 佐 | 下 村 | 浩 信 |
| 管 理 係 長 | 西 村 | 正 久 |

#### 4. 地方自治法第121条により出席した者

|                  |   |   |    |   |    |
|------------------|---|---|----|---|----|
| 市                | 長 | 樋 | 口  | 久 | 俊  |
| 副市長兼総務部長         |   | 北 | 村  | 和 | 博  |
| 市民部長             |   | 岩 | 田  | 輝 | 寛  |
| 産業部長             |   | 中 | 川  |   | 宏  |
| 建設環境部長           |   | 北 | 御門 | 敏 | 則  |
| 会計管理者兼会計課長       |   | 田 | 中  | 敏 | 男  |
| 企画課長             |   | 藤 | 田  | 洋 | 一郎 |
| 総務課長             |   | 中 | 村  | 博 | 之  |
| 財政課長             |   | 迎 |    | 和 | 泉  |
| 市民課長兼選挙管理委員会事務局長 |   | 田 | 中  | 一 | 枝  |
| 税務課長             |   | 中 | 村  | 和 | 典  |
| 福祉事務所長           |   | 橋 | 村  |   | 勉  |
| 保険健康課長           |   | 栗 | 林  | 雅 | 彦  |
| 農林水産課長           |   | 森 | 田  | 利 | 明  |
| 商工観光課長           |   | 有 | 森  | 滋 | 樹  |
| まちなみ建設課長         |   | 平 | 石  | 和 | 弘  |
| 環境下水道課長          |   | 福 | 岡  | 俊 | 剛  |
| 水道課長             |   | 井 | 手  | 讓 | 二  |
| 教育委員長            |   | 藤 | 家  | 恒 | 善  |
| 教育長              |   | 小 | 野原 | 利 | 幸  |
| 教育次長兼教育総務課長      |   | 谷 | 口  | 秀 | 男  |
| 生涯学習課長兼中央公民館長    |   | 有 | 森  | 弘 | 茂  |
| 同和対策課長兼生涯学習課参事   |   | 中 | 村  | 信 | 昭  |
| 農業委員会事務局長        |   | 松 | 浦  |   | 勉  |
| 監査委員会事務局長        |   | 中 | 島  | と | しえ |
| 監査委員             |   | 植 | 松  | 治 | 彦  |

平成22年9月21日（火）議事日程

開 議（午前10時）

日程第1 一般質問（通告順による）

平成22年鹿島市議会9月定例会一般質問通告書

| 順番 | 議 員 名     | 質 問 要 旨   |
|----|-----------|---|
| 7  | 1 松 田 義 太 | 直面するまちづくりの課題と優先的な政策の具体化について<br>1. 道路整備と利活用のあり方について<br>(1) 国道207号バイパスの完全4車線化への取り組み<br>(2) バイパス沿線開発の現状、今後の課題とは（企業誘致・直売所等）<br>(3) 有明海沿線道路の鹿島までの早期整備の取り組み<br>(4) 完成間近の多良岳地区広域農道の活用<br>(5) 市道整備のあり方<br><br>2. 子育てにやさしい魅力あるまちづくりについて<br>(1) 少子化による幼稚園・保育園の現状は<br>(2) 市立保育所みどり園民営化への道筋は<br>(3) 障がい児支援の取り組みについて<br>(4) 子育て支援の充実について |
| 8  | 3 松 本 末 治 | 1. 一次産業の振興<br>(1) 鹿島の特産品づくり<br>(2) ミカンの再生について<br><br>2. 住みたい・住みやすい鹿島<br>(1) 人口減少ストップの方策<br>(2) 公共施設の充実と利用   |

午前10時 開議

○議長（橋爪 敏君）

おはようございます。ただいまから本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（橋爪 敏君）

本日の日程は、お手元の日程表どおり一般質問を行います。

まず、通告順により順次質問を許します。1番議員松田義太君。

○1番（松田義太君）

おはようございます。1番議員の松田義太でございます。通告に従いまして、一般質問をいたします。

今回、私は鹿島市が直面するまちづくりの課題と優先的な政策の具体化についてという表

題を掲げ、特に私が重要な課題と認識しております項目について質問をいたします。

それでは、まず質問の1点目の道路整備と利活用のあり方について質問をいたします。

市長は、6月定例会での初めての施政方針表明の中で、県南西部の拠点都市として機能充実に図るため、利便性の高い道路整備を重視し、国道バイパス沿線開発や有明海沿岸道路の建設を推進すると述べられました。

私も桑原前市長の時代から幾度となくこの道路問題を取り上げ、その重要性を主張してまいりました。今後、樋口市長のもとで積極的かつ明確な方針が示され、具体的な事業が動き出すことに大きな期待を寄せております。私も積極的な道路整備を中心に地域の発展を図る政策は非常に重要であり、緊急性のある課題だと認識しており、その立場から質問をいたします。

まず、国道207号バイパスの完全4車線化への取り組みについてお伺いをいたします。

現在、国の経済対策で黒川から蟻尾山公園入り口、浜付近など4車線化の工事が行われていますが、この工事の概要、施工延長、予算、工期などをお知らせください。

また、この工事が完成すれば未整備区間があとどのくらい残るのか、延長や今後必要と思われる予算などお知らせください。

さらに、今後完全4車線化の見込み、残り部分の早期の着工完成に向け、市としてどのような取り組みを行っていかれるか、お伺いをいたします。

次に、バイパス沿線開発の現状、今後の課題についてお伺いをいたします。

この問題に関しては、鹿島市の第4次総合計画や国土利用計画でも土地利用計画のゾーニングとして工業ゾーン、商業業務ゾーン、住居ゾーンなどを設定して明確に開発の方針が示されており、市民の期待も非常に大きかったものと思います。しかしながら、バイパス完成後5年も経過しようとしておりますが、何も具体的な計画などが検討されていない状況は、ほかの自治体と比較しても大きなおくれをとっていると思います。結果としてどうして放置される結果になったのか、まず経過と見解をお伺いいたします。

次に、有明海沿岸道路の鹿島市までの早期着工の取り組みについてお伺いをいたします。

まず、事業全体から見て現在の事業の進捗状況についてお知らせください。

また、鹿島一福富間については計画はあるものの、着工のめどは全く立っていないのが現状だと言われておりますが、この区間の着工に必要な手続としてどのような段階を踏まなければならないのか、お知らせください。

この道路は、鹿島市にとって不可欠、将来の生命線と言っても過言ではありません。私は非常に危機感を持っておりますが、樋口市政にとってこの事業の位置づけ、重要度をどのように認識しておられるのか、お伺いをいたします。

4点目に、広域農道に関する質問は、先日、光武議員の質問と重複するところもありますが、確認のためにお伺いをいたします。

まず1点目は、鹿島市の道路政策の中でこの広域農道の位置づけをどのように考えておられるのか、今後、早速維持管理の業務や経費が発生すると思いますが、その場合の経費の負担などこの責任で行うのか、鹿島市の負担があるのか、2点お伺いをいたします。

5点目に、道路問題に関する質問の最後になりますが、広域林道、広域農道、国道207号バイパスなど市を横切る基幹道路は充実してきたと思います。これらの道路を有効に市民生活や地域産業の発展に生かしていくためには、それを縦でつなぐ連絡道路を整備し、さらに利便性を高める必要があると感じます。これらのことが市で行う市道整備の今後の大きな役割とっておりますが、今後の市道整備のあり方についての基本的な方針、取りかかってみたいと思っておられる具体的な事業がありましたらお知らせください。

次に、項目の2つ目の子育てに優しい魅力あるまちづくりについて質問いたします。

近年、本格的な人口減少時代が到来し、少子・高齢化の進行とともに我が国の社会経済を取り巻く状況は多くの課題が存在しております。本市においても、出生数が約10年前、平成10年の350人から平成21年度は254人、96人減、約3割減となっております。

第4次鹿島市総合計画では、平成22年の将来人口を3万4,000人と推定されておりました。ここ5年間を見れば、社会減が約1,160人、自然減が407人とほかの自治体に比べても減少率が大きいと思われます。この状況が続けば10年後はどうなっているのか、非常に深刻な問題であると思っております。

樋口市政の政策課題として、定住人口の確保は優先的な地域課題であります。そのためにも若い世代、子育て世代に魅力あるまちづくりを積極的に推進していかなければならないと思っております。

そこで、3点質問をいたします。

まず、1点目に少子化の影響による市内保育園、幼稚園の入所、入園状況の平成21年の分で結構ですのでお知らせください。また、定員割れの園は何園あるのか、お知らせをいただきたいと思っております。

また、保育料の滞納額、延べ人数についても、平成21年度分に関してお知らせをいただきたいと思っております。滞納額、延べ人数に関しましては、保育料の総額の何%であるのか、保護者総数の何%であるのか、同様にお知らせください。

次に、2点目として市立みどり園の民営化について、みどり園の運営状況及び今後の民営化に向けた平成22年度から25年度までの具体的な取り組みスケジュールについて説明をお願いしたいと思います。

3点目に、9月3日に佐賀新聞に掲載されたボランティア団体である鹿島おもちゃ図書館コスモス文庫が実施されますひまわりスクールは、障害児の子供たちが学校のない夏休みに生活リズムが狂いがちなため、勉強の習慣づけを図ったり、親子の触れ合い、親同士の情報交換をされているそうですが、この運営について福祉事務所が何か支援をされておられるの

か、お伺いをいたします。

以上で第1回目の総括的な質問といたします。

なお、通告しております質問項目のその他の部分につきましては、現在の取り組み状況や基本的な考えなど1回目の答弁をお聞きした上で、それに関連して一問一答でお伺いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

**○議長（橋爪 敏君）**

平石まちなみ建設課長。

**○まちなみ建設課長（平石和弘君）**

私のほうから、大きな1点目の道路整備と利活用のあり方について6点ほど御質問いただきましたので、順次お答えをいたします。

1点目の国道207号バイパスの完全4車線化への取り組みについてということでございます。

現在行われていますバイパス4車線化の工事概要、それから、あとどのくらい残るのかということですが、まず工事概要です。

中村工区として、黒川交差点から蟻尾山大橋に向けて延長600メートルで、蟻尾山公園入り口まではあと約200メートルのところまででございます。平成21年度予算で22年度への繰り越し事業として事業費80,000千円、完了予定は平成23年1月、それから浜工区が浜新方交差点から祐徳大橋までの延長1.2キロメートルを多良岳広域農道のタッチにあわせて、同じく平成21年度からの繰越事業で事業費240,000千円、完了予定は平成23年3月ということで実施をさせていただいております。

この工事によって鹿島バイパス全体区間9.15キロメートルのうち、平成22年度末に5.95キロメートルの4車線化が完了予定でございまして、残りの暫定2車線区間は約3.2キロメートルとなります。残工事は概算事業費で25億円になると聞いております。

2点目の完全4車線化の見込みと市の取り組みについてでございます。

県からは、残り区間約3.2キロの4車線化については交通量の推移を見きわめたいということございまして、実施時期の見通しは示されておりません。佐賀県の道づくり中長期道路整備計画に基づき、広域的な基幹道路ネットワーク構想の形成を最優先することを基本として、4路線、西九州自動車道、佐賀唐津道路、有明海沿岸道路、国道498号を重点整備路線として集中的に整備していく方針の中にあって、県内、これ以外の道路整備予算については厳しいものと聞いております。

市としての取り組みということですが、まず、現地機関である土木事務所との緊密な情報交換をしていくこと、そして、ぜひ早急に実施していただくようお願いをしていきたいと考えています。

県において、5年ごとに実施される平成22年交通センサスが10月には実施をされます。こ

の結果によって、平成17年との交通量比較ができますので、207号バイパスの状況や流れの変化を整理していきたいと考えています。

3点目に、有明海沿岸道路の進捗状況についてでございます。

県では、有明海沿岸道路は幹線道路ネットワーク構想を形成する重要な路線であり、有明佐賀空港へのアクセス道路としても機能することから早期完成を図りたいとされています。佐賀福富道路約10キロは、現在、嘉瀬川を渡る仮称嘉瀬南インターから久保田インターまでの間を平成23年春の供用開始を目標に、久保田インターから芦刈インターまでの間を新県立病院の開院、平成24年度中にあわせた供用の開始を目標に事業が推進されていると聞いております。

福富鹿島道路約9キロについては、現在、事業化前の環境影響評価の手続が順次進められていると聞いております。

4点目に、福富―鹿島間の早期に着工を完成させる取り組みについてでございます。

現在、環境アセス調査の3段階のうち2段階であり、完了まで二、三年かかると聞いております。要望の取り組みについては、毎年、建設促進期成会、九州市長会による国への要望と県市長会、県西部地区推進協議会による知事要望による提案活動を行っています。

5点目に、樋口市政にとってこの事業の位置づけはということでございます。

このことについては、先ほど議員もおっしゃいましたように、今議会冒頭の市長施政方針で述べたとおり、市政運営のための優先的に取り組まなければならない10項目のうちの一つとしておりまして、県南西部の拠点都市としての機能充実を図るため、利便性の高い道路整備を重視し、この有明海沿岸道路建設を推進するというにいたしております。

最後に6点目であります。市道整備のあり方ということでの御質問がっております。

市を横切る基幹道路は充実してきたが、それを縦につなぐ道路整備の必要性を感じるかどうかということでございます。

バイパスと207号を結ぶ幹線道路としましては、国道498号、444号、県道鹿島～嬉野線、奥山～鹿島線、市道中牟田～御神松線がございまして、量的には南北軸の道路網の形成はできておるといふふうに認識はいたしております。

それから、現段階で具体的な市道の整備の構想ということでありましたけれども、現在、今後の市道の整備のあり方につきましては、維持管理の時代ということで、大規模舗装を中心にした考え方、これを持っております。

ただ、道路整備のプロジェクトチームの発足によりまして、相当詰めた、全体的な網羅をされた形での検討の中身もございますので、そういったことを一緒に加味しながら、今後、全庁的な協議を経て整備の具体的な計画をつくり上げていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（橋爪 敏君）

藤田企画課長。

○企画課長（藤田洋一郎君）

私のほうからは、松田議員御質問のバイパス沿線開通について、第4次総合計画の中で推進をということになっておるけれども、その現状認識はというような趣旨での御質問に答弁をいたしたいと思います。

平成15年12月18日に国道207号バイパスというのが開通したわけでございますけれども、その前後からバイパス沿線の開発をどうしていくのかということにつきましては、議会の中でも幾度となく取り上げられてきたというところでございます。

平成15年当初はまだ土地改良事業が完了公告後8年たっていないというようなこともあって、なかなか具体的な庁内での検討というのは進んでいかなかったというのが実情だろうと思っております。そういう中で、平成17年から18年にかけて、庁内でも関係課集まりまして、どうしようかということで議論を重ねてきているというのが実態でございます。

そんな中で、総合計画の第2中間年の見直しにつきましては、バイパス沿線について開発をしていけないかということでの計画は掲げたというところでございます。それを受けまして、庁内での先ほど申しました関係課での協議を何回か行っておりますけれども、最終的には今後また、まちなみ建設課長のほうからも別の答弁の中では具体的な答弁があると思えますけれども、結局、都市計画の用途地域を見直す場合に要件があつて、なかなか今後ずっと人口の増加がたくさんあるかというのがまず要件としてあることが1つ。

それともう1つが、用途地域内に未利用地が当時八十何ヘクタールと言われていましたが、まだまだその当時では残っているというようなこと。それから、農振地域の除外につきまして、やはり優良農地であるので簡単にできないと。この3つがネックとなりまして、その後、具体的には市が優先的にそこを開発推進して、企業を誘致するとか、そういったことについてはなかなか難しいだろうというような庁内での結論となっておるところでございまして、当時の平成19年の一般質問の中ではそういった形で沿道サービス型の施設については別だろうけれども、市主導で開発していくのはなかなか難しいというようなところでの議論としてとどまっているということでございます。

今度は第5次総合計画をつくっていくわけでございますけれども、基本的には第5次総合計画の中でも我々いたしましたしましてはここは頭の中に入れておりまして、今度の第5次総合計画は5年間で集中的に具体的に行うものを掲げておりますので、具体的にバイパスの沿線の開発という項目では上げていませんけれども、全体的なコンパクトシティ機能を目指すという、そういう枠組みの中で、この部分については今後もいろいろと検討していくということで考えているところでございます。

以上でございます。



○議長（橋爪 敏君）

中川産業部長。

○産業部長（中川 宏君）

私のほうからは、広域農道の位置づけということで御質問ですので、お答えしたいと思います。

広域農道につきましては、本来の事業目的である農道としての活用は重要であるとともに、新しい基幹道路という考え方も必要だと思っております。既存の施設や活動との連携、それから観光、体験農業、宿泊とか農地のオーナー制度とかいったものと結びつけたいと考えておるところでございます。

なお、広域農道の観光面からのアピールとしましては、豊かな農作物の産地を通る道路、21本もの橋がある道路、雄大な有明海の見える山合いの道路という特徴を生かしていければと考えているところでございます。

なお、維持管理等につきましては課長のほうからお答えいたします。

○議長（橋爪 敏君）

森田農林水産課長。

○農林水産課長（森田利明君）

私のほうからは、多良岳広域農道の維持管理についてお答えをいたします。

広域農道の事業申請時の平成3年2月22日付で佐賀県と鹿島市長の確約書がございまして、まず、完成後、佐賀県から鹿島市へ管理委託がなされ、市が管理受託し、供用開始となります。その後、平成23年の8月末ごろと思われますけれども、佐賀県から土地改良法に伴いまして、財産と権利の無償譲与の手続が終わりますと、鹿島市で農道として維持管理していくこととなります。

鹿島市の費用負担ですけれども、県から鹿島市に譲与されれば、のり面除草作業、それから橋梁の照明の電気料、広域農道には橋がたくさんございますので、特に橋の上ですけれども、凍結防止の塩化カルシウムの散布、それと路面補修等の鹿島市の費用負担が出てくると思われますので、その負担額を今算定中でございます。

以上でございます。

○議長（橋爪 敏君）

谷口教育次長。

○教育次長（谷口秀男君）

私のほうからは、保育園と幼稚園の21年度の入所者数ということでお尋ねがっておりますので、お答えいたします。

鹿島市内に幼稚園のほうは2園ございます。それで、定員が250ということになっております。そして、21年度の入所数が107人でございます。2園で107ということで、定員等のあ

れからすれば2園とも定員割れと、現状はそういうものでございます。

以上でございます。

○議長（橋爪 敏君）

橋村福祉事務所長。

○福祉事務所長（橋村 勉君）

私のほうからは、大きい2番の(1)から(4)までについてお答えいたします。

(1)の少子化による幼稚園、保育園の現状はの中の保育園についてですけれども、市内には平成22年4月現在、公立、私立合わせて14カ所の保育園があります。保育園によっては入園児童数にばらつきがあり、定員割れを起こしている保育園が見られるため、これまで定員の見直しが行われております。

平成21年度の定員1,035人で、市内在住の入園者数が887人、この中で定員割れをしている園については9園ということでございます。ただ、済みません、この9園については22年度の数字ということでもよろしくお願ひしたいと思います。

全体的には、入園児童数は児童人口の減少に伴って年々減少傾向にあるというのがここ数年の現状でございます。また、保育料の滞納額は平成19年度末で16,739,680円、それと20年度末で17,452,350円、21年度末で17,305,130円ということで、ここ数年は横ばいで推移しております。

徴収率についてですけれども、ここ2年、3年、約97%ぐらいの横ばいを推移しております。

徴収につきましてですけれども、夜間徴収等を含めまして鋭意努力をしているところでございます。

次に、(2)市立保育園みどり園の民営化への道筋についてお答えいたします。

まず、運営状況といたしましては、入園児童数が定員100人に対し、平成19年4月末で58人、10月末で64人、職員数11人、平成20年4月末で48人、10月末で58人、職員数11人、平成21年の4月末で55人、10月末で63人という数字になっております。

決算状況ですけれども、平成19年度107,000千円、うち人件費が93,914千円、平成20年度102,985千円、うち人件費88,248千円、21年度107,231千円、うち人件費87,950千円となっております。

民営化への計画、削減額ですけれども、平成20年度決算をベースに申し上げますと、約45,000千円程度となっております。

具体的にはどういう計算をしたかといいますと、まず歳出である運営費が102,985千円、これは21年度分です。それから、歳入の保育料、広域入所負担金、職員の給食費等の収入がありますので、それを差し引きますと82,993千円、一般財源の投入額ということで御理解していただきたいと思ひます。

さらに、民営化した場合の一般財源の減が、主には地方交付税の減ですけれども、37,333千円ということで、その分を差し引きしますと約45,000千円という見込みを試算しております。

この計画を進めていく上で、佐賀県内の認可保育園の状況ですけれども、平成22年4月現在の総設置数が220園となっておりますが、そのうち全体の8割の167園が民間で経営されております。

このことから、これまでも多数の子供たちが民間の保育園で育ってきているということが推測できますし、また、民間保育園がこれまで培われてこられた経験などを踏まえれば、今後、民営化へ鋭意努力したいと考えております。

次に、(3)障害児支援の取り組みについてですが、先日の佐賀新聞に掲載されたボランティア団体である鹿島おもちゃ図書館コスモス文庫が実施されていますひまわりスクールにどのような援助をしているかというふうなことですけれども、福祉事務所は福祉会館2階にあります会議室を開放したり、場所の提供は行っているところでございます。また、補助事業のメニューの中には、現行制度ではこういった事業については見当たりませんので、もう少し勉強させていただきたいと思っております。

次に、(4)子育て支援の充実については、産業構造の変化など社会構造が大きく変わる中で(発言する者あり)失礼しました。

以上です。

○議長(橋爪 敏君)

1番松田義太君。

○1番(松田義太君)

項目が多く質問をいたしましたので、ちょっと時間的に厳しい面がありますので、絞って質問をさせていただきたいと思っております。

まず1点目ですが、国道207のバイパスの完全4車線化ということで、1点、御質問をいたします。

やはりこのバイパスにつきましては、4車線化が完全にならないとバイパスに隣接する土地利用がなかなか進まないという現実もあると思っております。そういう意味で、答弁の中でございましたけれども、関係県を含めて一緒に取り組みをやっていきたいということでお話がありましたけれども、現状では完全完成までいつになるのか、今のところちょっとわからないということであったと思うんですけれども、目安としてどのくらいまでにこの4車線化が完了すればいいという判断をされているのか、お伺いをしたいと思います。

○議長(橋爪 敏君)

北御門建設環境部長。

○建設環境部長(北御門敏則君)

207号バイパスの完全な4車線化をいつごろまでと考えているかということですが、これにつきましては、我々としては早期ということで現在も希望いたしておりますけれども、先ほど課長のほうからありましたように、交通センサス等の調査結果がどうなるのかということもありますし、それから、2つの橋梁をかけるという大規模な工事も控えておりますので、その点、土木事務所のほうにも我々としてはその辺お尋ねをしておりますけれども、具体的にはお答えはあっておりませんので、我々としては一刻も早い完全4車線化というのを目指して、今後とも土木事務所並びに県のほうにお願いをしていく以外にないだろうなというふうに思っております。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

確かに予算面も考えて非常に厳しいところもあるかもしれませんが、このバイパスに関しては、何段階かの過程を踏まえて完全4車線化になるのではないかなと思います。

ただ、鹿島市にとっては、まず第1段階として、あそこは農道部分というか、辻の交差点まで、やはりここまでは何とか第1段階として完全4車線化になっていかなければならないと私自身思っておりますけれども、そこまで何とか現状での見通しはどうなっておりますでしょうか。

○議長（橋爪 敏君）

北御門建設環境部長。

○建設環境部長（北御門敏則君）

議員おっしゃいますように、辻までは何とか最低でも4車線化をお願いしたいということで、土木事務所のほうにも県のほうにもお願いをいたしております。議員、皆さんと思いは一緒でございますので、今後とも我々としても強力に進めて、一緒になって働きかけをしていきたいというふうに思っております。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

ぜひ一步一步だと思っておりますけれども、将来のことを考えれば、少なくとも計画等を考えていく上では目安というのが必要になってくると思いますので、ぜひとも辻までの交差点については早目の取り組みというのをお願いしたいと。関係土木事務所、県についても積極的な活動というのをお願いしたいと思います。

それでは、2点目のほうに入らせていただきたいと思います。

先ほどの答弁で、藤田課長のほうからこの地域のことについて説明がありました。その答弁につきましては、平成20年の9月、2年前の私の一般質問のときに同様の質問をしております。

ます。先ほどの答弁は同様の答弁をされております。

私が言いたいのは、その後に今日までどういう取り組みをしてこられたのか。そのときの答弁でも、都市計画の見直しについてはまだ区域内に約80ヘクタール残っている。人口増がなければできないということがあるということで、県と一度話をしたけれども、なかなか難しい現状であったということで答弁をいただいております。それはわかりますが、そのときも今後ともこの地域については検討していきたいという答弁がありました。その過程を経て、この2年間で市のほうがこの地域に対してどのような取り組みをされてこられたのか、お伺いをしたいと思います。

**○議長（橋爪 敏君）**

平石まちなみ建設課長。

**○まちなみ建設課長（平石和弘君）**

バイパス沿線の優良農地、すべて平面交差をしている分については圃場整備があっているということで、平成20年ですか、議員から御質問があったときの市の考え方、スタンスというのを申し上げておりますし、先ほど企画課長のほうからも申し上げたとおりでございますけれども、都市計画サイドといたしましては、その後やっておりますことは、実はことし8月30日に件名は用途地域の見直しということで、これまでも県まちづくり推進課を窓口としまして、改めて担当レベルで相談に参りました。

それで、結果でございますけれども、用途の拡大については、今現状から申し上げますと厳しくなるほうになっておると。というのは、関係する規制法、農地法とか、それからまちづくり三法ができておりますし、農振法にしましても厳しいほうに行っておるということでございます。

鹿島市の状況からしまして、人口のフレームと申しますか、人口の将来における見込みですね、そういったものを再度改めて同じようなことを県のほうでは申されております。今後の考え方といたしましては、プロジェクトチームの中でも中心市街地の検討チームもございまして、今後、そういった中心商店街のあり方、結果等を踏まえて、土地利用のことも考え合わせていく必要が出てくるであろうということは予想されます。

したがって、都市計画サイドといたしましては、都市計画法の中で逆に用途地域の面的な規制をかけることができなければ、法でいうところの別途の規制を利用して、住環境を守りつつ、沿線サービスが張りつくならそれとの関係とか、そういうふうなことをやはり研究を今後していった、秩序ある土地利用、そういったことを頭に入れて、都市計画サイドとしては今後都市マスタープランの見直し、これがいつになるかわかりませんが、今5次総の計画を受け、それを指針として作業に入ることも考えております。

以上でございます。

**○議長（橋爪 敏君）**

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

県との話し合いの中で厳しい状況下にあるという答弁でありましたけれども、先ほどの話の中で、人口がふえる見込みがあるのかというのも一つの要件であるというお話でありましたけど、逆にとれば、こういうところを住宅開発するからこそ人口がふえるのであって、そういう計画がなければ人口というのはふえていかないわけですよ。

ですから、逆に私が思うのは、現時点では難しいのかもしれませんが、バイパス沿線の旧道と内側をどのように土地利用していくのか、正直いまだ具体策が見えない——今日まで見えなかったわけですね。それについての基本的な方針、具体的な施策を私は示す必要があると思います。それは計画であっていいと思いますけれども、その計画さえなければ、何も県との協議をする場で言うことも私はないのではないかなと思います。

ですから、その計画の中に企業誘致であったりとか、住宅の開発であったりとか、物産の直売所であったりとか、やはり地域の活性化、定住に貢献できるような施策を計画として持っておく。それを具体的に政策を市として持っておいて、県のほうと話をする。それをすることによって人口増が見込めてくるのではないかという話し合いをしなければ、厳に何もしなければ人口というのはふえていかないわけですから、そういう具体的な政策を今まで私はできていないような気がします。ですから、今後、そういう政策を私は練っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（橋爪 敏君）

樋口市長。

○市長（樋口久俊君）

幾つか御質問がございますが、基本的な部分について私からお答えをしたいと思います。

まず、道路と土地利用が一つテーマになっておりますので、その分につきまして私自身の考えでお話をしますと、道路と土地利用というのは実は別々の問題ではなくて、一つのコンセプトで物事に対応していくと、これは非常に大事なことではないかと思っております。そういう意味でお話をされているのは、方向としては僕は同じ考えだと思って聞いておりました。

その中でお話をしますと、鹿島市の形をちょっと頭に思い浮かべていただきますと、私自身は私どもが毎日お世話になっている心臓ですね、心臓の実際の形に非常によく似ているんじゃないかと思って、よく話をすることがあるんです。そういうときに、大事な動脈が完全じゃないんじゃないかと思っています。つまり、心臓の上部につながっております動脈部分ですね、これは私は今お話がございました有明海の沿岸道路は、当然この一つに位置づけていいんじゃないかと思っています。

それから、207が南北に抜けております。それから、嬉野のほうへ行く道路が一つ予定を

されていますね。それから、444は既にもうつながっております。もう一本、高規格の道路が想定はされていますが、具体的な位置についてはまだはっきり決まっていないと。そういうことを考えますと、動脈部分について、いささかやらないといけないことは残されているなど思っております。そういう意味で考え方は議員と同じなんです。

一つ、何で今までできなかったのかという質問がございましたが、実はそれは私が聞きたいことございまして、皆さんのほうがむしろ御承知だと思いますが、私が頭にありますのは、できなかったことを追及するんじゃないなくて、今からどうすればいいだろうかということが問題ではないかと思っております。

そうしますと、国とか県、つまりこれのかぎを握っているところと十分調整がついていなかった、これに尽きると思うんですね。そうしますと、じゃあどうしてつけていくか。お金があれば、市単独でつければいいんですが、とてもじゃないけど、そういうことはできない。とすれば、関係の方々的一生懸命になって、一緒になって知恵を絞っていく。そういうこともございまして、一つだけお話をしておきますと、来月、長崎県に行きまして、県庁も同じようなことを考えておられます。つまり、これは最終的には諫早、それから長崎まで関係する話ですから、そのお話をしに行くことに既に予定されていますので、そのこともできればある程度の前進の見込みをつけてきたいと思っていますし、わかれば御紹介をする機会もあるかと思っております。

ただ、一番ポイントは、関係者に説明するときには実態が伴っていないんですね。今お話しになっていますように、人口はどうなるんだ、産業の活性化する見込みはどうなるんだと言われたときに、その根拠がなかなか私どもは迫力ある説明をし切らないと。そういう意味での基礎体力はつけていかないといけないんじゃないかと思っております。

それから、207を特定してお話ございましたから、ちょっとその点についても御紹介しておきますと、これは昔のことを言ってもしょうがないと思いますが、私どものまちでは鉄道が南北に走っておりますね。それと並行して207が走っております。しかも、鹿島地区、浜地区ではバイパスが207号線の西側を通っているんですね。そして、鉄道が東側にございます。ですから、長期的にバイパスを鉄道なり市街地と関連させて活用するという、そういう展望に立てば、実はもう今はだめなんですけれども、展望に立っていれば、本当は東側ですかね、つまり鉄道の裏をこのバイパスがもし通っていれば、おっしゃるような話がかなり楽に世の中に説明できたんじゃないかと思えます。

鉄道の西側に207というか、本道といいますか、国道があつて、そのはるかまた西にぐるっと湾曲をさせてバイパスをつくった結果、本来のバイパスの目的でございます市街地に車を入れれないという目的は達成されましたけれども、バイパスから市街地、あるいは鹿島駅へ入ってくるということについては、ある程度あきらめて設計されているととりあえず思うしかないわけですね。その時点で、じゃあ、バイパスをどういうふうにご利用するかというとき

に、鹿島駅と結ぶとなると、今度は本道でございます207をまたぐか、交差するしかないんです。そうしますと、本来の207の役割がその分減殺されますし、かなり難しい設計をしないといかんということになると思いますので、いきなりバイパスと鹿島駅なり、あるいは現在の市街地と結びつけるというのは非常に難しいんじゃないかと思います。そこで、恐らく沿線をどうするかという議論が出てくるんだと思いますね。

そこで、おっしゃったようにバイパスの内側にある土地をどうするかということですが、実はこれについてもお話のとおり、このところ、具体的な事業としては検討されていなかったのが実情だと思います。

ただ、4車線化が現実のものになってきました。それから、お話がございましたように、広域農道がもう目前に完成すると。それから、中心市街地について私どもはどうするかという具体的な検討を始めています。林道ももう既に存在していると。こういうのを有機的に使わなきゃいかんと思います。それも考え方は同じなんですよ。そのときにどういう考え方をするかということが実は今から早急にやらないといけないことだと思いますね。

できなかったことは、さっき言いましたように、もうなぜかとか、反省は必要なんですけれども、そこから一つステップを上がりまして、その進んでいる——先ほど御質問は2年前とおっしゃいましたですか、正直言って私は存じ上げておりませんが、そのときの議論からそれだけの事態の変化がありますから、それを踏まえた上で次にどういうふうにしていくかということをお急ぎに結論出したいなと思っております。

とりあえず今の考え方を紹介しておきます。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

答弁をいただきまして、1点、私の言い方が悪かったのかもしれませんが、過去を責めているわけではなくて、私の質問をしまして、この2年間、そして今、平石課長が答弁をされましたけれども、県との話し合いの中でいろいろな提示をされた中で具体的な政策が現時点ではまだ固まっていないというのがありましたので、私は少なくともその中で住宅開発、また企業誘致、直売所など、そういうのを検討しておくべきではなかったのかなということをおし上げたつもりであります。

それで、今市長の答弁を聞きまして、もう1点、御質問をさせていただきたいと思うんですけども、第5次総合計画の素案の中で都市基盤の市街地住宅の整備の項目で効率的な良好な環境の市街地形成のため、集約型の都市整備、コンパクトシティの実現を目指すという記述が新しくあります。逆に、バイパス開通に伴う都市計画区域の見直しやバイパス沿線の開発の記述が第4次総合計画とすると削除されていると。その中でもう1点、わずかに商業の項目でバイパス沿線は沿道サービス型の施設によって活性化を図ると記載をされております。



ですから、先ほど市長がおっしゃった話の中で、やはり内側の土地利用をどうしていくのかというのを今後7つのプロジェクトもあると思いますし、今後の政策課題としてぜひとも計画をつくっていただきたい。それが市民の目に見える形での計画であってほしいと私は思いますので、ぜひとも重点施策としてお願いをしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（橋爪 敏君）

樋口市長。

○市長（樋口久俊君）

2つございました。

沿道についての——沿線と言ってもいいですけど、これについては正直言って調整する部署が多いと。さっき御説明を課長から申し上げましたのと、なかなか制度論で乗り越える部分が難しく、その中で何をやるか。当面はそういう中でもやらないといかんことはやらないといかんわけですから、個別具体的な、例えば転用でございますとか、そういうお話があったときに、実際そのことが、私が申し上げていますようにこの地域のためになるか、ならないかという判断が一番最初に必要だと思いますので、そういう判断のもとに推進したほうがよからうということでございますと、個別マターとして対応していくということで、調整が整うまでは積極的に対応していくということではないかと思えます。

それから、第4次と5次の違い、おっしゃったように記述が若干違っておりますね。それはなぜかといいますと、全く同じ分野を対象にした文章ではあるんですよ。決して落としたり、削ったりしたわけではございません。ただ、片方は沿道のことを、中身はなかったんだけど、書いてあったと。ちょっときつく言えば、片方はその見通しが立たないの——というのは期間を短くしましたよね、5年間ということなので、そのところがあるので、落としたりじゃなくて、つまり、もっと力を入れないといけないところを記述したと。意味は同じなんです。やりたいと思っているところはですね。ただ、どちらかというコンパクトシティといいますか、現在、もう御説明するまでもなく、駅前に立ってごらんになりますといろんなところに空き地がございますですよ。そういうところのほうがりあえず手をつけるところではないかということで、頭にありますコンパクトシティの一つのスタイルとして、そういうところの手入れをしていかないといけないということございまして、決して沿線の開発、あるいはその内側の農地の扱いとか、用途地域のことについて除外してもう手をつけないでほうっておこうということではないということは理解していただきたいと思えます。

○議長（橋爪 敏君）

1番松田義太君。

○1番（松田義太君）

それでは、これは前回、20年の9月に質問をしたときにちょっと戻りますけれども、そのときに一つ提案で、北鹿島地区は国道207号、498号、また国道444号と接続し、利便性が高い地域になっており、まさに鹿島市の表玄関になっておるということで申し上げました。

そして、そのときに私が一つ提案をさせていただいたのは、この地域の開発の起爆剤というか、拠点となるようなものをつくっていただきたいと。北鹿島地区は、もうこれは皆さん御承知のとおり農業を中心にした土地柄でございますので、地元物産の直売所などを設置する考えはないでしょうかと。市のほうで積極的にというわけではないけれども、地元がそういう機運であれば、市としてもできるだけの協力はしたいということで答弁があっておりましたけれども、この件につきまして、現在、農林水産課としてどのように把握をされておられるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（橋爪 敏君）

樋口市長。

○市長（樋口久俊君）

議員には申しわけないんですけれども、実は先月だったですか、北鹿島地区で私と語る会というのがございましたね。私は議員からも御招待を受けてお伺いしましたが、残念ながら議員はおられなかったものですから、この話のやりとりを多分御承知ないので、今の質問になったんじゃないかと思えます。

全く同じお話がございましたので、私はこの話は地元の人方の熱意と私どもが何をお手伝いできるかということをよく詰めれば、決してできない話ではないでしょうという話をいたしました。そこで、地元の方々とのやりとりでは、もう1つ、地元の方の御意見がまとまっていないとか、熱心度、熟度についてもう少し検討しないといけないという話になりました。

そこで、私どもはしてはそれがまず第一でしょうと、そこのあるレベルにならないと、なかなか市役所なり行政が一生懸命になって、さあしなさい、こうしなさいということではないんじゃないかというお話をしました。恐らくその話がまだ伝わっていなかったんじゃないかと思いますが、これは当日おられた方からお聞き取りいただければ、多分そういうやりとりになっておりますので、決して私どもが消極的ではなかったということは御理解をいただきたいと思えます。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

今市長のほうがお話をされましたけれども、地元の出席をされた方からもそのような意見は少し聞いておりました。地元として、まだ現時点で協力体制というのができていないということもありましたけれども、やはり今後はこういうものを積極的に考えていきたいので、もう一度、市のほうと一緒にそういう協議会をつくりながらやっていきたいというお話をさ

れている方々からちょっと私に意見があったものですから、今回、このような質問をさせていただいた次第であります。

それでは、次の項目について御質問をさせていただきたいと思いますが、有明海沿岸道路についてであります。

これについては、平成35年完成ということで当初うたわれておりましたけれども、現時点で本当にこの35年度の完成というのが現実的であるのか、市として今、把握をされている状況についてお伺いをしたいと思います。

**○議長（橋爪 敏君）**

平石まちなみ建設課長。

**○まちなみ建設課長（平石和弘君）**

この件につきましては、県のほうの有明海沿岸道路の整備事務所がございますので、その御担当の副所長さんにそのことを、こちらのほうで開催をする期成会の総会ですね、そういった時々にお尋ねするわけですけれども、返ってくる答えといたしましては、先ほど議員申されましたように、当初計画では平成35年を目標にされておると。しかし、やはり財政状況等の動向によっては現在の計画に影響が出てくるのが懸念をされるということは申されます。

そういうことでございますので、やはり私たちはそういった状況ですね、今、県のほうでは最大限にここは重点だということで、国の予算、それに県はそのままの事業費ベースを堅持する形で現在のところは来ておると思っておりますけれども、今後は特にそういった状況をこれまで以上に進捗状況については注視をしながら、常に要望活動を積極的に行っていくと危ないと。特に福富鹿島道路はまだ事業化になっていないわけでございますので、そこらあたりを十分に踏まえて取りかからにやいかんというふうに思っているところでございます。

以上です。

**○議長（橋爪 敏君）**

1 番松田義太君。

**○1 番（松田義太君）**

これは市長にお尋ねをしますが、やはり有明海沿岸道路というのは、鹿島市にとっては今後のまさしく生命線になる非常に重要な道路だと思います。先ほど答弁にありましたけれども、予算的な面、今の現状については、平成35年の完成というのは非常に厳しいのではないかというお話がありましたけれども、今後、この道路整備については、官民一体となって具体的な取り組みが私は必要になってくるのではないかと思います。

先日、光武議員の広域農道の件もありましたけれども、やはり要望活動について何か今後より具体的な考え等があらわれるのであれば、お伺いをしたいと思います。

○議長（橋爪 敏君）

樋口市長。

○市長（樋口久俊君）

多分先日の話というのは、恐らく広域農道で婦人の皆さんが一生懸命頑張っていかれて、農水省を説得したというお話だと思います。

要望というのは幾つかやり方があると思うんですけども、私も要望いただいた経験がある者からしますと、数でたくさんお見えになったからというのは余り関係ないんですね。ただ、担当者なり、本当にそこに何らか影響力ある者が本当に心の底から、ああ、これはつくらんといかんねと思わせることじゃないかと思います。そのための材料をどうやって用意するかと。そんないいアイデアが幾つもあるれば、みんなやっているんですけども、そう簡単になかったんですけども、あのときはたまたまうまくいったということでもあります。しかし、それは皆さんが頑張ってちゃんと説明されたからだと思うんですよ。

今度の一つが、諫早の市長さんともこの前お会いして御相談をしたんですが、やっぱり横の連携といいますかね、ただあるまちが来て、下さい、下さいということではなくて、関係のところの手を取り合ってそういう実情を訴えるということは大事ですねと。そこはもう合意に達したというんですかね、同じ思いを持ちましたので、よく連携をしていきたいと思えますし、先ほどお答えもしましたが、長崎県庁に行きまして、できれば知事さんとお話をして、こういうことについても県としても理解をしてくださいねというようなことをお話ができればなど。とりあえず、やれることからやるということではないかということで、来月行くという予定が現在立っているところです。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

ぜひともできるだけ早い完成が見られますように、具体的な取り組みをお願いしたいと思います。

それでは、時間が来ておりますので、子育てのほうに移らせていただきたいと思います、まず1点目ですけども、みどり園の民営化についてお伺いをします。

1点、ちょっと私が危惧しているのは、民営化することによって、市として市内の保育園の状況を直接把握できなくなる。つまり、市として経営ノウハウがなくなってしまう危惧があります。民間保育園を指導監督する立場として、今後の保育行政を進めていく上で、その基本となる市立の保育所を民営化することになれば、実態の状況を市が把握できなくなる危惧が私はあるのではないかなと思いますけれども、それについてお伺いをしたいと思います。

○議長（橋爪 敏君）

岩田市民部長。

○市民部長（岩田輝寛君）

お答えします。

公営でなくなることによって民間の保育所の実態が把握できなくなる懸念があるということだと思います。

今は鹿島の保育園のほとんどが社会福祉法人ですね。これの経営指導ないしは監督というのは、これは県が権限として握っております。それで、毎年数園の監査とか、業務経営について指導をしているという状況です。

その場に私たちも、福祉のほうからも立ち会います。そして、その関係の書類もいただきます。私もことし4月から来て初めてそこら辺の書類を見せていただいたわけですけど、そこら辺の書類を見れば、その経営実態というのは市が必ずしも公営を抱えておかんでも、実態というのは把握できるというふうに考えております。

そこら辺できますので、もし何らかの指導が必要ということであれば、県と協力しながら指導してまいりたいというふうに考えております。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

この件につきましては若干時間が要ると思いますので、また12月議会で御質問させていただきたいと思いますが、ただ、私が今回民営化について、民営化をされた武雄市、小城市、佐賀市、各担当課の方々と意見交換をしてきました。その上でどこでも民営化をされていますが、やはり保育所というのは、一つは市として持っておったほうがいいのではないかという危惧をされておりました。武雄市のほうも今、民営化をほとんどされましたけれども、1園だけは残されております。それは、障害児の方々の保育というのがやはりなかなか民間では難しい部分があるので、それを一つの公立のところで一緒になって運営をされている例もありますし、小城、佐賀においてもそれぞれのやり方でされております。

そういう点につきましては、今後、12月議会でまた御質問をさせていただきたいと思いますが、1点だけ、進め方なんですけれども、今後、計画どおり推進をされていかれるとするならば、やはりその地域、また保育行政全般をとらえて進めていっていただきたいと思えます。

民営化ありきではなくて、なぜ民営化をするのか、それによって鹿島市内の保育行政がどうなるのか、そういうきちんとした説明がなされなければ、逆に今の状況を見ますと、何か説明をされたのが廃止ありきというのか、廃止だけがひとり歩きをしているような危惧があるものですから、非常に私としては怖いなと思っておりますので、ぜひ進め方には慎重に対応していただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

○議長（橋爪 敏君）

岩田市民部長。

○市民部長（岩田輝寛君）

現在のみどり園が廃止を前提としているということではございません。まず、民間のほうに移譲はしますけれども、継続をするということです。そいけん、廃止の場合はどうしても引き受け手がなかったりのようなことが生じた場合に廃止ということになります。

私たちは当然、存続するために精いっぱい努力をしてまいりたいというふうに思います。以上です。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君。

○1 番（松田義太君）

一番市民の方々に誤解がないように、慎重に丁寧な進め方をお願いしたいと思います。

それで、最後にもう1点、先日、9月3日の佐賀新聞にも掲載をされましたけれども、ボランティア団体の方が障害児の子供さんたちをボランティアでサークル活動されております。先ほど答弁いただきましたけれども、やはり学童保育にも行けない、また、自分のところでずうっと夏休みの期間中見ておかなければならないということで、非常に保護者の方々の負担というの大きい面になっていると思います。ですから、こういうサークルをボランティアでされていると思うんですけれども、なかなかいつまでもこのサークルがボランティアというのは非常に難しいのではないかなと。やはり市として何らかの補助——補助とまでは言いませんが、サポートというのをさせていただければ、非常にそういう障害者の子供たちも、また、障害者の保護者の方々も助かるのではないかなと思います。

現時点で補助に満たすような制度がないという答弁でありましたけれども、これは佐賀市の例ですけれども、佐賀市におきましては、昨年までは夏休みの障害児の皆さん方の実行委員会というのをつくられて、それについての市単独の補助をされていたと聞いております。今年度からは実行委員会ではなくて、各ボランティアのサークルに関して幾らかでも市としての援助をやっていこうということで、5つの団体に約200千円ずつの補助をされているということでお聞きをしております。

私は、費用を申し上げているのではないんですけれども、やはり市として今後、子育てに優しい、また、魅力あるまちづくりというのは、こういうところに気配りをしていただけるような政策を打ち出せるかだと思いますので、ぜひとも市として、場所は提供していますということでお話がありましたけれども、この場所についても、こういうサークルをされている方々とお話をされていながら、よりよい環境づくりというものをつくっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（橋爪 敏君）

岩田市民部長。

○市民部長（岩田輝寛君）

御答弁をいたします。

まずもって、こういう福祉部門で御活躍をいただいているボランティア団体の方にお礼を申し上げたいと思います。

それで、具体的に佐賀市の紹介をいただいたわけですがけれども、議員御存じのように、うちの予算、決算を見てもみますと、平成20年度、21年度で全体に民生費の割合が31%、三十五、六億円になっております。そういう中で、障害者団体というのが550,000千円ぐらいの支出になっております。

そういう全体的な予算の中で……

○議長（橋爪 敏君）

簡潔にお願いします。

○市民部長（岩田輝寛君） 続

バランス等を見ながら、御質問の件についても検討を今後させていただきたいというふうに思っております。

○議長（橋爪 敏君）

1 番松田義太君、簡潔にお願いします。

○1 番（松田義太君）

ぜひとも検討をしていただいて、若い世代、子育て世代に魅力あるまちづくりの施策というものをつくり上げていただきたいと思います。

これで一般質問を終わります。

○議長（橋爪 敏君）

以上で1 番議員の質問を終わります。

ここで10分程度休憩します。11時30分から再開します。

午前11時21分 休憩

午前11時30分 再開

○議長（橋爪 敏君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

次に、3 番議員松本末治君。

○3 番（松本末治君）

おはようございます。3 番議員松本末治です。通告に従いまして、一般質問をいたします。

まず初めに、議長へお願いをいたしておきます。質問中に不適切な表現、言動がありましたら、注意、御指導お願いいたしておきたいと思っております。よろしく申し上げます。

さて、樋口市政133日目、御就任後、大変御苦労さまでございます。先日、9月13日、

15時37分、民主党代表選挙で菅直人代表が誕生しました。その直後、菅直人代表は過去20年のひずみを正さなければならない、そして、新しい日本をと発言されていました。ちょうどカーラジオで聞いておりました。どこかに似ているかなと思い、耳を立てていました。そして、日本に新しい元気を、将来のためにと続けられた。

樋口市長就任初めは、副市長も兼ねて歳出に寄与という気持ちもあられたのではないかなと勝手に推察いたしておりましたが、土曜日、日曜日もない多忙な業務だったことがどうしても副市長誕生へとなったのではないかと思います。新しい風が吹いてくれるのを信じてのことだったのではないのでしょうか。

ラグビーでのノーサイドとか、サッカーのサポーターとか民主政権は言っておられます。我々市議会議員も市職員の皆さんもノーサイド、市民の皆さん全員がサポーター、将来の鹿島のためにとあるべきではないだろうかと考えております。

市長になりたくてなりたくてなった人は、その職務についてから後で設計図を考えるが、自分がなったならばとの思いが強くてなった人は、なったときには既に設計図が完成していると、これも民主党政権争いで批評をされていました。

それでは、今回もまず初めに1次産業の振興方策について質問をいたします。

現在、鹿島市の基幹産業の農業、林業、漁業の3部門で、どれを見ても厳しい状況であります。農業においては、米の所得補償制度そのものはよしとしても、その所得補償の財源確保のために荒廃園対策、後継者育成のための基盤整備事業は事業仕分けで縮小、また、現在米の価格そのものが下落ぎみの状況である。

先日報道された新有明漁港開港を知り、すぐ現地視察に行きました。すばらしいの一言です。びっくりしました。新聞報道によりますと、事業費37億円、そのうち白石町が1,030,000千円、27%、同漁協が188,000千円の地元負担、何のその、主な利用者は新有明支所と北明支所のノリ養殖業者、計76戸が主に利用する予定とあります。つつい七浦支所と比較したくなりまして、ちょっと調べていただきました。

平成21年度、昨年を比較いたしますと、七浦支所関係の養殖ノリ漁家68戸、新有明、北明で74戸、6戸の開きです。それで、水揚げ高、販売高、七浦支所549,000千円、新有明、北明941,000千円、392,000千円の開きです。

そこで、10年ぐらい前は鹿島、七浦、佐賀県一だと言われていたころじゃなかろうかと思えますけれども、平成10年度、七浦支所で85戸、新有明、北明118戸、33戸の開きがありますけれども、販売高では七浦支所833,000千円、新有明、北明で928,000千円、95,000千円の差でしかなかったわけですね。昨年は392,000千円の開きが出ている。このような実績をどうとらえるかは今後の緊急な課題ではないのでしょうか。

そこで、鹿島市において6月4日発足された7つのプロジェクトチームに新しい特産品づくりがあります。まず、鹿島の特産品づくりということで質問をいたしたいと思えます。



初めに、先日、9月10日、佐賀県、福岡県、熊本県、長崎県4県の漁業者が漁船約300隻、漁業者1,300人が諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水門の開門調査実施を求め、海上デモが行われました。「宝の海を返せ」「国は開門調査を先送りするな」「もう待てないぞ」と七浦の漁業後継者の皆さんもシュプレヒコールを上げていました。私も近所の後継者に誘われ、参加させていただきました。

昨年、一昨年と冷凍ノリが、諫早湾内の汚水の一度に大量の排出により、大きな品質低下はもちろん、収穫皆無も出ており、特に諫早湾排水門に近い漁場ほど厳しい、特産品生産に黄色信号が、いや、赤信号が点滅しております。過去においては、鹿島、七浦地区は有明海一番のノリ生産地であったのに、このようなことを市当局はどのようなふうにとらえられているかをお尋ねいたします。

続きまして森ですけれども、鹿島の豊富でミネラルの多い天然水の源、森林地帯ですが、この日本の緑と水が危機にさらされているということですが、全国的に外国資本、特に中国の超富裕層の億万長者が森林、林野を高値で買いあさっているらしい。現在、北海道、長野県を中心に、近くでは長崎、五島にも触手しているとか、目的ははっきりしていないとか、この点で現在鹿島での状況はどういうふうでしょうか、お尋ねをいたします。

続いて農業についてであります。まず主食の米です。

米と思えば、鹿島はおいしい酒があります。罪もつくります。酒の原料、酒米で、地元鹿島で生産された米がどれくらい使用されているか、お尋ねをいたします。

続きましてミカンの再生について、プロジェクトの中の新しい特産品づくりで特別にミカンの品質向上と加工による高付加価値を上げてあり、ありがたく感謝いたします。

そこで、果物は品種にまさる技術なしということわざがあります。ある程度までは技術でカバーできましても、最後はその品種の特性。先般、8月10日、JA七浦支所農業振興大会でガタリンピックのときに七浦産「南津海」を売り出そうとJA指導者から提案がありました。「なつみ」とは、奥さんの名前を持った人もおられますけれども、南の津の海ということで書きます。「南津海」という品種は熟期が4月から5月と極めて遅く、周回おくれのトップランナーとうまく表現されていましたが、これについて部長、課長も出席されており、どのようにとらえられたか、お尋ねをいたします。

続いて大きな2番ですけれども、住みたい・住みやすい鹿島市と上げておりますけれども、七浦小学校へ赴任され、1年以上たたれた先生に何回か尋ねたことがあります。「七浦はどげんですか」と尋ねますと、まず1番目に「よかところですね」と言われます。そして、「子供たちも素直でよい子供たちですね」。その次に「お父さん、お母さんも協力的でよいですよ」と言われます。

ある校長先生に同じことを聞いたことがあります。校長先生は、大体2年か3年で転勤であります。「転勤せんばいかんですもんね」と尋ねますと、「ずうっとおられたら定年まで

おつてもよかったですけれど」「おりたかですけど」というようなことも言われましたけれども、自然環境がよい、子供たちが素直でよい、そして父兄も、そしてつけ加えて私には「おじいちゃんたちもよかもんね」というようなことでありました。

何か住みたい・住みやすいにつながりませんかという気もしましたから御披露いたしましたけれども、人口減少ストップの方策ということで1番目に上げておりますけれども、人口減少抑止策と関係あるかはわかりませんが、鹿島の一つの顔として肥前鹿島駅舎があります。今回もいろいろ質問等あっておりましたけれども、重ねて質問をいたします。

平成23年改修改築計画で安堵いたしておりますが、先般のことでもあります。車いすで利用をされる際、利用者の人がひどく怖がられたとのことを聞きました。それは、駅員さんが数人、強力で車いすを持って階段を上り、運んでいただいた。ありがたいことですが、車いすに乗っておられた利用者さんはひどく怖がられたということをお聞きしました。何とかならないのですかねというようなことでありました。

聞くところによれば、JR九州管内の市庁舎所在地の駅でバリアフリー未整備は、平成22年度現在、肥前鹿島駅だけだと聞いておりましたが、樋口市長のおかげで今回整備されることのようにですが、詳しく御説明をお願いいたしたいと思います。

続きまして、第5次総合計画案の中で人口フレーム、定住促進などの施策を積極的に行い、人口減少に歯どめをかけ、人口増を目指すとあります。5年後、平成27年に3万2,000人とあります。先般も中村副議長の質問等でもあっておりましたけれども、人口減少では計画を立てられないというような含みがあったおりましたけれども、まず、農業への新規就農者もふえていると先日光武議員への答弁でありました。23人でありました。県内で160人、これは新聞等でも載っておりましたけれども、その中で法人就農が14人と半分以上です。法人はどのような法人に就農されているのか、まず実態をお尋ねいたしたいと思います。

続きまして、人口減少ストップで考えると、いかに転出者を抑え、人口の減少を食い止めるかではないのかということで、資料提出いただいた人口の年齢別分布で見ますと、総人口で平成12年3万3,969人、22年3万1,635人で、減少率7%ですかね。12年比93.12ということになっておりますが、ゼロ歳から1歳、2歳、3歳、4歳は93%に対して73から79%と減少率が大きいです。出生率が少ないということでしょう。1学年でとらえると250人前後——1学年というか、1年単位でとらえると。10年以前は350人前後、我々の年代で考えますと、480人前後鹿島に現在生きていることになります。それでも多分半分以上は鹿島を出ていることになっておりますけれども、さて、問題は平成27年、5年後、いかにして3万2,000人の人口にするかということだと思いますけれども、さっきも申し上げましたけれども、目標ですというようなこともあろうかと思いますが、今後5年間、鹿島市は死亡者ゼロで転出者をいかに少なく抑えるかではないかと単純に考えておりますけれども、方策をお教えいただきたいと思います。

続きまして、公共施設の充実と利用ということで、高齢社会になり、これも提出いただいた資料で見ますと、65歳以上、人口の4分の1、25.57%、8,091人、そのうちひとり暮らしが1,341人、16.57%、この人口の中で要介護の人口がランクごとにわかればお尋ねいたしたいと思います。

2番目に、地区公民館内ごとの高テーブルといすの整備数を調べていただきましたが、全体的に分析するべきですが、今回は七浦地区をとらえてみます。体育館、B&G体育館で高テーブル31、いす97、高齢社会になり、若き時代日本のため、鹿島の発展のため、体をいたわることなく酷使され、現在、ひざ、腰に異常を来され、座ることが難しい人が多いと思います。敬老の日、年金友の会総会等で利用をされますけれども、例年150名前後の方が参加されています。

昨日の七浦地区敬老会には270名、対象者は652名ですけれども、270名参加をされていました。その中で、いすが足りないのではということもあろうかと思いますが、やはりいすに座らないと長く正座、いたぐらめしておれないということで欠席される方もあるそうです。

今回見ておりますと、いすが後ろのほうに1列22脚で4列ぐらい、88ぐらいですかね。実行委員さんたちもみんな座ってであります。いすではありません。鹿島市長代理で出席された田中敏男会計管理者のほうも正座をされておりました。——ですね。関係者まで入ると、150脚ぐらいいすが不足しているんじゃないかということを感じましたけれども、また、けさ聞いたことですが、七浦のB&Gの玄関口で転ばれて、手を骨折されたということを知りました。外からの玄関口まではバリアフリーのスロープができております。玄関の中は一段段差があるわけですね。バリアフリー未整備です。そこで、帰り際、混雑したのではないかと推察いたしますけれども、靴を履く時点ででしょうか、前のめりされて、手をつけてけがされた、骨折された、救急車が来たということを知りました。私も早目に途中で退席いたしておりましたので、けさまで知りませんでしたけれども、こういうふうなことを考えますと、バリアフリー化の対応も必要ではないでしょうか。実行委員会のやり方も幾らかの工夫も必要ではないかと思っておりますけれども。

ついでで済みませんが、七浦のB&G体育館の舞台を見られて感心されたか、びっくりされたかと思っておりますけれども、舞台に幕、どんちょうがありません。もう古くなって落ちてしまった、老朽化したということでもあります。今は工夫をされて、ミニスカートをはかせて窮地をしのいでおられます。この辺の対応というのは、もともとB&Gの資金ということですからB&Gにお願いするべきところでしょうか、お尋ねをいたしたいと思っております。

続いて、車いす利用可能なトイレの調査をしていただきましたが、公的施設での設置は各施設ほぼ1カ所、この程度で十分とお考えか、また、どこかは不足じゃないか、どのようにとらえられておられますか、お尋ねをいたします。

最後に、ひとり暮らしの人が65歳以上で1,341人、75歳以上で889人、やはりひとり暮らしの人の話を聞きますと、本当に夕方になると寂しいというようなことを言われております。好日の園や太陽、ゆうあい、その他こういう施設に入所されておられる方は別だと思えますけれども、入所されておられる方がどれくらいかお尋ねをして、1回目の質問を終わります。

○議長（橋爪 敏君）

午前中はこれにて休憩します。なお、午後の会議は1時から再開をいたします。

午前11時59分 休憩

午後1時 再開

○議長（橋爪 敏君）

午前中に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

3番議員の質問に対する執行部の答弁を求めます。森田農林水産課長。

○農林水産課長（森田利明君）

私に対する質問が5点ほどあったと思いますので、順次お答えをいたします。

まず最初に、ノリ不作の事態をどのように市はとらえているかということにお答えをいたします。

鹿島市のノリの生産額につきましては、平成18年度が約27億円、平成19年度が約23億円と平均で約25億円ありましたが、海況条件の悪化に伴いまして、平成20年度は約14億円、平成21年度は約16億円と2年続けての不作でありまして、大変危惧をいたしているところでございます。

諫早湾干拓の調整池の排水と有明海の環境変化についての因果関係につきましては、まだはっきり解明されておりませんが、排水についてはなるべく漁業に悪影響が出ないように少量ずつの排水を長崎県側へ要請をされているところでございます。

有明海再生のためには、開門調査を早急に行ってもらい、環境変化の原因や影響の調査等が進むよう佐賀県や県有明海沿岸市町水産振興協議会、県有明海漁業協同組合とともに今後とも要請を行っていきたいと思います。

続きまして、外国資産が森林、林野を買っているらしいとのことでの質問でございました。当市におきましては、森林組合等に問い合わせをいたしましたが、今のところ、外国資産の森林、林野の買収の動きはないとのことでございます。また、取引事例が明らかになったのは北海道や長野県の事例でございますが、新聞報道や林野庁の調査で判明いたしましたものは、埼玉県、長野県、山梨県、三重県、岡山県での買収打診の事例がっております。

続きまして、鹿島で生産されました酒米がどれくらい使用されているかについてお答えをいたします。

まず、鹿島産酒米「山田錦」の21年産の市内状況を報告いたします。

生産者でございますけれども、JAの中央支所で5名、浜支所で6名、合計11名の方が生

産をされております。作付面積が15ヘクタールで生産量は荷受け重量で102トン、出荷重量で60トンであります。出荷先は市内の全酒造業者6社であります。

続きまして、七浦産の「南津海」についてお答えをいたします。

「南津海」は、糖度が14度から15度になる最高品質で、4月から5月ごろに生産出荷ができて、ほかとの競合もなく価格も安定しているとのことでございます。このため、温州ミカンにかわる有望品種として県やJA等の関係機関と連携しながら、「南津海」の普及推進を図っていきたいと考えております。

続きまして、新規就農先の法人等はどのような法人かについてお答えをいたします。

最初に訂正をさせていただきます。去る9月16日の光武議員の一般質問の新規就農者数についての答弁の中で「法人就農」を「法人等就農」へ、「農業生産法人」を「農業生産法人等」へ訂正をお願いいたします。法人等就農や農業生産法人等の「等」の中には、農の雇用事業を活用されました個人経営者5名が含まれておりましたので、御了承をお願いいたします。

それでは、法人等就農者14名の就農先の営農累計別人数をお答えいたします。

花木経営に5名、果樹経営に4名、野菜経営に2名、畜産経営に2名、園芸に1名となっております。

以上でございます。

○議長（橋爪 敏君）

藤田企画課長。

○企画課長（藤田洋一郎君）

私のほうからは、議員御質問の2点につきまして答弁をさせていただきます。

まず1点目が、鹿島駅の整備についての具体的な整備はどうかというような御質問だったと思いますので答弁させていただきたいと思いますが、その前に、議員がおっしゃいましたJR九州管内で市庁舎所在地の駅でバリアフリー未整備は鹿島駅だと聞いているというような御趣旨の御発言がありましたが、多分これは私のほうが委員会の中で申し上げた数字だと思いますので、ちょっと訂正をさせていただきたいと思います。

基本的に今、佐賀県内で特急列車がとまる駅でバリアフリーが進んでいないのが鹿島駅ということで、委員会の中ではそういうふうに申し上げておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、鹿島駅の整備につきましては、これは6月の時点で樋口市長が就任されてから今までの懸案の事業であったということで、とにかく何とか鹿島の顔としての整備ができないかということでの指示がありましたので、我々としてもいろいろな検討を重ねてきているというようなところでございます。

今現在、この鹿島駅の整備につきましては、4段階ということで整備の手法は考えている

ということでございます。まず1段階目といたしましては、鹿島駅のバリアフリーとトイレの改修、それから第2段階といたしまして駅舎の改築改修、それから3段階目といたしまして駅前の広場の整備、第4段階といたしまして駅周辺の整備というようなこの4段階でやっていくということで考えております。

その中で、今JRさんなり県と具体的な話ができておるのが第1段階の鹿島駅のバリアフリーということになります。

バリアフリーにつきましては、基本的に11人乗りのエレベーターを設置したいと考えております。そのエレベーターがホームに行くためには、スロープなり、導入のアプローチの動線が必要でありますので、そのあたりをどうしていくのかというのを今、JRさんと具体的な話の話をさせていただいているということでございます。

この中身の大半の事業費とかなんとかにつきましては、もうちょっと具体的な件につきましては、まだ結論が出ていない検討段階でございますけれども、基本的には先ほど議員申されましたように、今は車いすの方を駅員の方が4人がかりぐらいで抱え上げられているという部分を何とか解消できないかということでのエレベーターを設置するというので、車いすの方もお一人で見えて、お一人でホームまでは行けるといような形で整備できないか、これはホームに上がりますと、今度はまた列車との段差あたりが列車によりましてありますので、どうしても手で介助というのは必要かと思っておりますけれども、まずは今までネックでありましたエレベーターがないという部分ですね、それから、車いすの方ばかりではなくて、高齢者の方にとってかなり階段についてはきつい、何とかならないかという御要望もずうっと鹿島駅のほうにも私のほうにもいただいておりますので、それを解消したいということで今話を進めているということです。

基本的には23年度にぜひこの事業化をやりたいということで、JRさんも一応国のほうには手を挙げる方向であるということもお聞きいたしておりますので、ぜひそういうことで事業を進めていきたいと考えているところであります。

あとその次の段階につきましては、まだまだ今、駅の基本構想を我々はつくっておりますので、そのあたりができ上がり次第、またJRさん、それから県、国、そのあたりとずうっと調整を図りながら、できるだけ速やかに第2段階、第3段階、第4段階と進んでいきたいと努力しているところでございます。

鹿島駅は以上でございます。

それから、次に総合計画の中に3万2,000人の人口フレームの設定をということで、死亡者が5年間ゼロで転出者を抑えなければなかなかというような御質問でありましたけれども、議員言われますように、かなりデータを見ていただいてもわかりますように、ここ5年、10年ととにかく人口はどんどん減ってきているというのが実態であります。そういう実態を我々もにらみながら、でも、この長期計画に対してどうしたら歯どめをかけられるのかとい

うのが今度の大きな5次総合計画の柱と考えているところでございます。

そのためにはパワーのある施策をかなりやらないと、この5年間で人口の減少に歯どめをかけていくのはかなり難しい、ハードルの高い施策であろうと考えておりますけれども、ただそれはそうとしながらも、まず努力をする目標を立てて、それに向かって努力をしていくことが大事だろうということで、第5次総合計画の基本的な柱として、人口の減少に歯どめをかけるということで、最終的には反転攻勢、人口増に向かえばこれが一番ベストであろうということでの計画ということでございます。

じゃあ、それを具体的にどういうふうにやっていくのかということでありましょうけれども、今現在、先週の水頭議員とかの御質問にもお答えいたしました、今、市長のほうから指示がありまして、7つのプロジェクトの最終的な提案をいただこうとしています。その中で、定住促進のプロジェクトというのがございます。その中では、中間報告の中でもかなり何か具体的な施策の提案等もあってございますので、そのあたりが出そろいまして、それをもとに——その施策ばかりじゃないとは思いますが、人口増を図るためには、松田議員からもありましたように子育て世代への目配りとか、いろいろな施策、かなりの関連施策があると思いますけれども、そういう目に見える部分、見えない部分も含めまして目配りをしながら、全体的にはそういった施策を打ちながら、この大きな人口減少の歯どめをかけるという施策に取り組んでいきたい、そのように考えているところでございます。

○議長（橋爪 敏君）

栗林保険健康課長。

○保険健康課長（栗林雅彦君）

先ほどの質問の中に高齢者社会になりということで、要介護のランクごとの人口ということでございますが、この中に65歳以上とか、ひとり暮らし1,341人という中でランクづけというのは非常に難しゅうございます。

と申しますのは、要介護認定と申しますのは、特定疾病を持っている40歳からでも認定をいたします。ですから、この中でどなたがどこのランクにと申しますのは、年齢構成別にどうなっているというのはちょっと出せませんでしたので、今現在、介護認定をされている方のランク別の人口を知らせたいと思います。

要介護の1認定者が286名、要介護の2が224名、要介護の3が202名、要介護の4が157名、要介護の5が125名ということで、8月末現在994名という方が要介護の認定をされております。

それから、もう1つでございますけれども、好日の園、太陽、ゆうあい、その他施設ということでございますが、好日の園の定員は107名でございます。太陽が40、それから、ゆうあいが80名でございます。ここは市内だけではなくて、よそからも入っていらっしゃいますし、住民票を持ってきたり、持ってこなくても入れる部分がございます。絶対持ってこなけ

ればいけないところもございますけれども、ですから、この部分で市内居住者が何人というのはちょっと出しにくいのですが、一番出しやすい方法といたしまして、介護施設の月の利用者を出しております。つまり、一月に何人利用したかということです。332.5件のサービスを受けられておりますので、この介護施設、いわゆる介護福祉施設、保健施設、療養型の医療施設——いわゆる入院施設ですね、ここに332.5件という形でサービスを行っておりますので、これぐらいの方が利用されているというふうにお考えいただければと思います。

以上でございます。

**○議長（橋爪 敏君）**

橋村福祉事務所長。

**○福祉事務所長（橋村 勉君）**

私のほうからは、大きい2番の(2)公共施設の充実と利用、その中の車いす利用での利用可能なトイレ数調査の中のこの程度で十分かというふうなことでお尋ねにお答えします。障害者福祉を所管している私のほうからということです。

まずもって、これが十分かということについては検証等が必要になってきますので、ここで少ないとか、多いとかはちょっと発言を控えさせていただきます。ただし、私のほうに障害者相談員さんがおられますけれども、市全体で不便を感じるかというふうなことを尋ねましたけれども、最近コンビニ等でもそういう施設の設置が進んでおります。ですから、そういったことを考えたら、ほとんど不便は感じていないというふうな御意見がありましたので、申し添えさせていただきます。

以上です。

**○議長（橋爪 敏君）**

有森生涯学習課長。

**○生涯学習課長（有森弘茂君）**

松本議員の公共施設、特に地区公民館における備品が不足しているが、どう思われるかということで、ちょっと先ほどの橋村所長と前後しますが、お答えしたいと思います。

地区公民館には、テーブルといすの整備、それぞれ整備しているわけですが、多数、数の多寡はあると思います。ただ、おっしゃるとおり、イベントの大きさとかによっては、場合によっては数量が不足するというところもあるかと思っています。ほかの能古見地区公民館とか浜公民館には、一応貸し出しが可能な机、いすもあるということで、ここいらを有効に利用していただきたいというふうに思います。

また、毎月1回、生涯学習課のほうでは公民館の主任主事会とか主事会を開催して、それぞれイベントとか、用事とかの連絡調整も行っておりますので、こういう場も有効に利用していただきたいというふうに思うところでございます。

次に、どんちょうの件ですが、このどんちょうは寄贈されたものというふうにお聞きして



おりまして、古くなった結果、地元の皆さん方の了解を得て撤去をしたというふうな経緯があるかと思えます。現在のところ、このどんちょうの新設については、計画はないというような状況でございます。

以上でございます。

**○議長（橋爪 敏君）**

3番松本末治君。

**○3番（松本末治君）**

それでは、一問一答でお願いをいたします。

まず初めに、諫早湾の開門調査等についての答弁をいただきました。本当にきょうの朝日新聞にも有明海が減びつつあるんだというような内容じゃなかったろうかと思えますけれども、掲載されております。その中で、前回も市長にもお尋ねをいたしましたけれども、やはり二枚貝、浄化能力が高い二枚貝がいなくなってしまうている。しかし、お店に行けばアゲマキも食べられますというような形であるわけで、現在、有明海生産というのはゼロじゃなかろうかと思っておりますけれども、市場には出回っている、それは韓国産だというようなことで聞いております。

韓国、観光には行ったことがありますけれども、干潟関係がある鹿島との姉妹都市関係でまだ未経験でありますので、韓国の干潟と有明海、七浦地先あたりの干潟との違いがどのような状況なのか、お尋ねをいたしたいと思えます。

**○議長（橋爪 敏君）**

森田農林水産課長。

**○農林水産課長（森田利明君）**

お答えいたします。

アゲマキの有明海産は統計上はゼロであります。福岡県等では幾らかとれているということでお聞きをいたしております。

お尋ねの干潟の状況でございますけれども、以前と比べますと潮流が遅くなったため、潟土の粒子が小さくなりまして、目が詰まった状態で貧酸素状態となっております、生育が悪くなっているのではないかということでもあります。

参考までに申し上げますと、激減した二枚貝のアゲマキの復活を目指す佐賀県の養殖研究事業がございますけれども、太良町大浦と鹿島市七浦、佐賀市川副町を試験区として稚貝がまかれております。太良町大浦の試験区では海底を耕うんし、海砂をかき混ぜておられますし、七浦の試験区も覆砂や海底耕うんを終えまして、稚貝の放流を行われております。

このようにアゲマキの復活を目指して調査、研究が行われておりまして、今後の成果を大いに期待しているところでございます。

以上であります。

○議長（橋爪 敏君）

3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

今のお答えですと、干潟の暖流構造化を図らばいかんというようなことのようにですね。ぜひそういうふうな対策をとりながら、また上流での汚水の排出をできるだけ避けながら、アゲマキ貝の再生を本当に期待いたしておきたいと思っております。

それでは、続きまして山、森が侵されているというようなことでお答えいただきました。

これも鹿島には特別影響ないというようなことですが、かなり林業不況といえますか、低迷をいたしております。1町でも1,000千円もせんというような状況ですから、それ以上ですと、すぐ売りますよというような人もおられるかもしれませんので、そういう場合の、農地については、いろいろ農業委員会等で売買等においても縛りがあるんじゃないかかと思っております。林野等でのそういう場合の縛りというか、そういうふうなことについてはどういうふうになっておるか、お尋ねをいたします。

○議長（橋爪 敏君）

森田農林水産課長。

○農林水産課長（森田利明君）

お答えいたします。

保安林を含みます私有林等の林野の売買は、国土利用計画法によって、都市計画区域外では1ヘクタール以上の売買につきましては売買契約日から2週間以内の事後届け出義務があります。また、基本的には売買条件等の規制もなく、土地の転売に関しても、その転売目的が林地開発であった場合でも、保安林以外の森林、林野で1ヘクタール以下の面積であれば林地開発等の許可も特段必要ではございません。

ただし、森林所有者が共同で開発を行う場合や何年かに分けて開発を行う場合で、その開発面積が合計して1ヘクタール以上であれば、都道府県知事への林地開発の許可が必要となるところでございます。したがって、保安林以外の私有林を1ヘクタール以上購入し、林地開発などの森林、林野の転用目的で転売する場合は、上記のいずれかの届け出をしなければならず、現行の法制度の中でも一定の森林、林野の土地取引については把握は可能であります。

また、森林法に照らして次の4項目に当てはまる場合は、林地開発の許可ができないということになっております。

1項目めでございますけれども、開発行為により森林の周辺の地域において土砂の流出、または崩壊その他の災害を発生させるおそれがある場合、2項目めが、開発行為によりまして水害の防止機能に依存する地域における水害を発生させるおそれがある場合、3項目めが、開発行為によりまして水源の涵養機能に依存する地域における水の確保に著しい支障を及ぼ

すおそれがある場合、4項目めが、開発行為によりまして森林の周辺の地域における環境を著しく悪化させるおそれがある場合、こういう4項目に当てはまる場合は林地開発の許可ができないということになっております。

以上でございます。

○議長（橋爪 敏君）

3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

なかなか難しいわけですがけれども、やはり簡単に一遍に100町も幾らも販売をされてしまっていたというようなことがないようなことを望みたいと思います。できれば森林業においても特産品開発ができて、そして、海の森、日本の森も本当に余裕がなくならないように、余裕がないから外国資本に販売されてしまっているんじゃないかというようなこともありますけれども、数十年来、松くい虫が松の木を枯死させているというようなこともありましたけれども、億万長者が日本の国土を侵食するというようなことがないように、本当に鹿島市民3万2,000人が知恵を出し合ってやっていけるような対策をお願いしたいと思っております。

それでは、米に移りたいと思います。

米と思えば浮かべますと、樋口市長がいつも言われております。すべて鹿島産でというようなことで、米は酒ということでさっきも申し上げましたけれども、酒は米と水と、そして酒を醸し出す酒だる、それをかんだるのは杜氏さんということです。そして、そのでき上がったやつを商品化して小売りするのは瓶詰め容器ですがけれども、鹿島の銘酒、名前を上げていかどうかわかりませんが、上げます。「能古見」「蔵心」「鍋島」でどれくらい鹿島産の原材料が使われているか、お酒でちょっと傷んでおられる部長にお伺いしたがよかですかね、お尋ねいたします。

○議長（橋爪 敏君）

中川産業部長。

○産業部長（中川 宏君）

御指名ありがとうございます。酒のおいしい鹿島で生まれ育ってよかったと思っております。まだ傷んでおりませんので。

御質問の鹿島の酒づくりにおける鹿島産の状況でございますが、まず酒米の「山田錦」は先ほど言いましたように6社すべて納入されているところで、3銘柄についての鹿島産の状況ですが、まず酒米につきましては、2つの銘柄産が半分、50%は鹿島の酒米と。残りの1銘柄が30%ということでした。すべてを鹿島産ということで思いはあられるようでございますが、災害、台風災害などに備えて作付を市外にもお願いしているということで聞いております。

次に水ですが、3銘柄とも100%鹿島の水を使っていたいております。

酒だるにつきましては、今はホーロータンクということで使用されておまして、今、ちょっと鹿島産というわけにはいかないということで聞いております。瓶やパックにつきましても、これは全国でもつくっているところは数少ないということで、すべてが業者から購入しているということでございました。

それと、最後に杜氏さんもありましたが、鹿島市民の方です。

以上です。

○議長（橋爪 敏君）

3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

もういっちょ酒でお尋ねをいたします。

酒だるも酒瓶もと私は言いたかったですけれども、ホーローになってしまっている。もし鹿島の材木でヒノキのたるとか、ヒノキの酒器というか、昔はしょうゆのたると、ぎりぎりつとねじって、そのねじを取ってしょうゆが出てきよったというのがあつたですね。2升5合ぐらのそういうたるとをつくって、ますます繁盛でたると詰めて売ったらよかつちやなかろうかというような気もしますけれども、酒もヒノキの杯でということで、きのうの晩、1杯飲んでみましたけれども、本当においしいです、香りがよくてですね。ヒノキの器で1合ぐらい入るやつを個人でつくってもらいましたけれども、そういうふうな売りもあるんじゃないかなろうかということで、今、日本酒は停滞しておりますけれども、日本酒がよみがえるのではないだろうかと、そういう考えを持っております。

先般、8月全米日本酒鑑評会というのがハワイで開催され、佐賀県内の4蔵元7品が金賞に選ばれたということで新聞に出ておりました。そのうち、鹿島から2蔵元4品が金賞ということですね。これに付加価値をつけるとして、どうでしょうかね、そういうふうな考えは市長でしょうか。

○議長（橋爪 敏君）

樋口市長。

○市長（樋口久俊君）

お答えいたします。

今、鑑評会の話が出ました。鑑評会にはいろんなスタイルがありますけれども、今おっしゃったのは多分ハワイで開かれたやつじゃないかと思うんですね。そのほか、いわゆるお酒の専門家の国税局の鑑定官が鑑定をいたします鑑評会もございまして、どれがいいとか悪いとかというわけにはいきませんが、なかなかつくっておられる方のねらいからいきますと、ある程度どこに出す、どの大会でどの賞をねらうかというのかなり焦点を絞ってつくっておられる実態にあるんじゃないかと私は思っております。

したがって、ある賞に出たからその銘柄をすべてそういうふうにするかということは、また別じゃないかと思ったほうがいいと思います。水準というか、技術が非常に高いことは証明されますが、同じ銘柄のものがその蔵元が出しておられるもののどれくらいのシェアかということに考えてあげないといけないんじゃないかと思っています。

したがって、水、米、杜氏等々すべて今おっしゃったような蔵元の方は非常に高いレベルのものにあると思われませんが、もしそうだとすれば、別の形でPRをしたほうがいいんじゃないかと思っております。

例えば、容器で売るとすれば、我が地域には陶器もありますし、それから材木も竹もあるんですよ。だから、売り方はいろいろあると思いますから、ある容器だけを売るかどうかということについては、なかなかこれがいいよというのでお勧めというわけにはいかないんじゃないかと。それぞれの蔵元さんなり販売店が自分の創意工夫をおやりになって、最終的には、例えば、私どものまちじゃございませんが、隣のまちでは酒の瓶を包む紙まで地元でつくった和紙でやるというようないろんなアイデアを出しておられます。そういうことを含めて検討したほうがいいんじゃないかと思っています。ある焦点を決め過ぎると、何と申しますか、全体の販売高の伸びにつながるかどうかというのは難しいなと思っております。

○議長（橋爪 敏君）

3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

私が余り森林、材木のことばかり頭の中に置いて考えて質問をいたしておりましたので、そのほうまで余裕がなかったんじゃないかならうかと思っております。なるほどありがとうございます。

それでは、続きましてプロジェクトで助六というか、いなりずし等が検討されております。現在、進捗状況についてお尋ねをいたします。

○議長（橋爪 敏君）

中川産業部長。

○産業部長（中川 宏君）

プロジェクトチーム提案の助六ですね、いなりずし、巻きずしということで、現在の進捗状況ということでございますが、私が市長から指示を受けておりますので、私のほうからお答えさせていただきます。

この提案は、チームによりますと、観光客に今まで弱い部分と言われてきた人を呼べる食の開発によって滞在時間の延長と消費拡大に結びつけたいからということでございます。

佐賀県の観光客動態調査というのをちょっと見てみましたら、佐賀県にお見えになる目的の1位は温泉が74%、2位が食事40%となっております、ほかの目的を圧倒しております。ただし、佐賀県ということで、鹿島の数字ではございません。ただ、この数字は鹿島も頭に

入れていく必要があると思っております。

そこで、進捗状況といいますか、取り組み状況でございますが、8月17日にプロジェクトチームの中間報告があっております。その20日の段階で市長から取り組みの指示が出ているところでございますが、それほど時間が経過しておりませんので、現段階で具体的に申し上げるものはありませんが、いなりずし、巻きずしの材料が市長演告にありますように、鹿島産の材料にこだわるということでございますので、その確保をどうするかというのを今一つ検討しています。特に砂糖の原料となるサトウキビの生産をどうするのか、これが1点目の今どうするのかの検討です。

それから、2番目がいなりずしとか、巻きずしをどこにつくってもらうか、どこで販売してもらうのか、それをどのような方法で決めていくかとか、それぞれ課題がまだありますので、その辺の調整を行っているところで、進め方や課題などについて整理をしている段階でございます。

以上でございます。

○議長（橋爪 敏君）

3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

観光については、やはり食と自然ということですかね、観光地ということじゃなかろうかと思っておりますので、ぜひ今、207街道はもう少ししたらカキ焼きという食、本当にそういうのでかなり観光客は来ているかと思えますし、ぜひ観光客を呼べる助六、本当に助六が助七、助八になるかもわからんというぐらいに完成をさせていただきたいと思えます。

続きまして、近ごろ6次産業ということが言われ、私は単純に1次、2次、3次で6次か、1.5次とちょっとばかり関係したような農商工連携ぐらいに思っていました。先日、光武議員の質問について当局の答弁を聞き、日本農業新聞をよくよく見てみると、農業者戸別所得補償制度との車の両輪で食料自給率の向上を強力に進めるねらいとあります。何だか違うのかなというような気がしたんですけれども、お尋ねいたしたいと思えます。

○議長（橋爪 敏君）

樋口市長。

○市長（樋口久俊君）

第6次産業という話ですが、この概念は最近出てきた話でして、今村奈良臣さんという大学の先生が発想された言葉なんです、第1次産業、つまり物をつくる場所ですね、農業生産そのもの、第2次が加工ですよ、第3次が流通販売、えてして従来まではどうも農業というところの軸足を置いて議論をされましたし、私どももつくるほうに目が向くことが普通だと思っていたと。そういう中で今村さんがお話をしておられますのは、そうじゃないだろうと、本当に農業者が農業所得、あるいは日本全体としても農業生産を安定的に継

続いていくには、つくるという部分と加工するという部分と流通という部分まで農業者ができるだけ手を出してとといいますか、かかわって、最終的にできれば販売のときの価格を決めるところまでイニシアチブをとればよいなど、簡単に言うとそういう発想なんですよ。

第1次産業の1と第2次産業の2と第3次産業の3、1プラス2プラス3ということで6次産業と、こういうふうになまえがつけられております。こういう発想はもともとありまして、生産から流通までとかいう言葉で呼ばれておりましたが、言葉はなかなか定着しなかったんですが、今村さんの発想で第6次産業というものがかなり物事としてわかり始めたということでございます。

私、考え方自体は非常によくわかりますし、この考え方に私どもは注目しながら、できれば、まさに今議員が質問されたすしをつくるというような、どっちかというところのところがまさに6次産業なんです。しかも、おつくりになる方が農業にかかわっておられたら、全く6次産業そのものだと思います。そういう意味で、この考え方は私どもは頭の中に入れてやらんといかんなど、そういうふうにしておるところでございます。

○議長（橋爪 敏君）

3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

ありがとうございます。何とか私の頭でもわかったような気がいたします。

続きまして、ミカンの再生ということで七浦「南津海」についてお尋ねをいたしました。

「南津海」の特性というのは先ほど申し上げましたけれども、熟期が4月、5月であります。冬を越さねばなりません。また、先般も七浦で生産者が言われておりましたけれども、鳥獣ですね、鹿島ではヒヨドリを中心とした鳥、それにイノシシというのが一朝一夜でゼロになるぐらい被害があります。これに対する対策ということで、「南津海」をぜひ産地化というような思いも持っていていただいているというようなことで先ほどお伺いしました。どうい対応をしていただく予定か、よろしく申し上げます。

○議長（橋爪 敏君）

森田農林水産課長。

○農林水産課長（森田利明君）

お答えいたします。

「南津海」の鳥獣被害対策についてのことだと思いますけれども、まず最初に防鳥ネットの施設の対策について答弁をいたします。

県のさかの強い園芸農業確立対策事業ということで、平成22年度から防鳥ネット施設も補助対象となっております。それと、JAさんの事業で、JAさが園芸パワーアップ事業で防鳥ネットの設置に対しての助成がございます。それから、イノシシにつきましては、有害鳥獣駆除組合さんのほうへお願いして、いつも駆除をしていただいております。

それと、当市では今年度からイノシシの被害防止対策事業といたしまして、狩猟免許取得費の一部の17千円の補助、それから電気牧さく購入費やワイヤメッシュの助成を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（橋爪 敏君）

3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

ちょっと時間がないので、はしりたいと思います。

先ほど駅舎の件について詳しく課長より御答弁いただきました。その件につきましてですが、やはり駅の整備に際しては、佐賀、博多への通勤、通学も今後は減る傾向になるだろうし、地球エコの面からも鉄道利用は大きく寄与できることではないかと思えます。そうすると、鹿島はベッドタウン化でもよし、また、生活するには鹿島、衣と住は鹿島で食、仕事は佐賀でも博多でもとなれば、並行在来線も鹿島までは停車。

去る8月15日、終戦記念日の新聞に「新幹線西九州ルートを生かせ 5市サミット」で、県境を越え連携強化、沿線活性化へ知恵絞るといような、その中のパネル討議で松本崇大村市長さんが、沿線5市だけでなく、周辺市町の発展も考え、連携も大事だとの提言がございました。先ほど市長のほうからも連携的なことを言われておったと思えますけれども、西九州ルートはまだまだフリーゲージトレイン開発もいま一步の状況のようですが、BバイCばかり言っているのは、周囲からはBバイCじゃないですけど、売買されるだけじゃないかと思えます。大村市長さんが言われるように、沿線5市周辺市町村の連携……

○議長（橋爪 敏君）

簡潔にお願いします。

○3番（松本末治君） 続

共存共栄が必要ではないでしょうかということで、市長、お尋ねいたします。

○議長（橋爪 敏君）

樋口市長、簡潔にお願いします。時間が来ましたので。

○市長（樋口久俊君）

はい、それでは一言だけ。

正直言って西九州ルートといいますか、長崎新幹線と言ってもいいんですけども、先行きは不透明な要素がいっぱいあると思います。それはそれとして、我々は山積しております問題をいっぱいやらないといけないことがあります。必要によっては周辺のまちの市長さん方とよくよく相談しながら、連携をとってやるべきことをやっていくということではないかと思っております。

○議長（橋爪 敏君）



3番松本末治君。

○3番（松本末治君）

議長のおしかりは覚悟で、最後、大事なことです朗読いたします。

○議長（橋爪 敏君）

簡潔にしてください。

○3番（松本末治君）続

最後に、鹿島市の職員は市内最高の頭脳集団だと思います。特に20代、30代におかれては、県の頭脳集団にも劣らないものだと思います。市長は、鹿島市の優先的な地域課題として10項目を上げ、それに対処するために市役所内部で横の連携、縦の風通しをよくし、政策提言、企画立案を積極的に行う雰囲気をつくることや、政策の形成過程で活発な議論が極めて大切だと演告で申されました。

この頭脳集団を生かすも殺すもトップの決断力とコーチの手腕ではないでしょうか。ただ、からからに乾いた木材のたるはすき間ができて、すき間から知恵が漏れてしまいます。たるをなしている一つ一つの知恵の器に潤いを持たせ、機能させるのはコーチの力です。たるの輪の位置だと思います。かた過ぎてもゆる過ぎてもよい知恵はたるにはたまりません。

この位置どりは杜氏さんの技術でしょう。鹿島の酒は本当においしい酒です。しかし、杜氏さんがかわられたことで、趣味が、酒の味が変わったと言われる蔵元もあります。頭脳集団が伸び伸びと力を発揮し、鹿島市民の生活に寄与していただき、住みたい、住んでよかった鹿島づくりにお互いに頑張りましょう。

○議長（橋爪 敏君）

以上で3番議員の質問を終わります。

よって、本日の日程はこれにて終了いたします。

明22日、23日の両日は休会とし、次の会議は24日午前10時から開き、委員長報告、議案審議を行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後1時54分 散会